

# 昭和54年度春季大会

会期：昭和54年5月15日（火）～17日（木）  
 会場：東条会館（東京・半蔵門）  
 第33回通常総会・第29回自動車技術会賞授賞式・  
 学術講演会・研究懇談会・特別講演会・懇親会・見学会

## ■ 第33回通常総会 ■

5月16日（水）14：45～15：40に東条会館・1階ホールで、出席正会員72名、委任状提出正会員6,410名をもつて行われた。

豊田会長の挨拶があつたのち、定款第28条により豊田会長を議長に推し、議案の審議にはいつた。

第1号議案：昭和53年度事業報告の件

本案、森田庶務担当理事より資料にもとづき、事業報告が行われた。

第2号議案：昭和53年度収支決算報告の件

本案、田中会計担当理事より資料にもとづき各会計について、決算報告および中間報告が行われた。

引続き、伊藤監事より53年度業務および会計監査の結果は適正である旨の報告が行われた。

1号、2号議案とも異議なく承認された。

第3号議案：昭和54年度事業計画案の件

本案、森田庶務担当理事より資料にもとづき事業計画案の説明が行われた。異議なく承認された。

第4号議案：昭和54年度収支予算案に関する件

本案、新木会計担当理事より資料にもとづき予算案の説明が行われた。異議なく承認された。

第5号議案：評議員選任規則改正の件

本案、森田庶務担当理事より資料にもとづき、改正の主旨、概要について説明が行われた。異議なく承認された。

## ■ 第29回自動車技術会賞授賞式 ■

5月16日に東条会館において、学術賞2件、技術賞2件の授賞式が行われた。式は豊田会長の挨拶に始まり、関審査委員長より審査結果の報告があつたのち各賞の授賞が行われた。

### 《学術賞》

#### ●自動車用メタノール機関の研究

鶴賀孝広君

昭和22年3月17日生。50年東京大学大学院工学研究科博士課程卒、51年（財）日本自動車研究所入所、第3研究室研究員。

須藤英夫君

昭和22年8月31日生。47年日本大学生産工学部機械工学科卒、同年（財）日本自動車研究所入所、第4研究室研究員。

岩井信夫君

昭和23年6月19日生。46年大阪産業大学工学部交通機械工学科卒、同年（財）日本自動車研究所入所、第3研究室研究員。

（受賞の理由）

本研究はメタノール燃料を飽和温度以上に加熱して噴射する減圧沸騰の原理を適用することにより、メタノールの適性混合気形成の困難性を解決し、自動車用メタノール機関の性能改善に大きく寄与した。

また本研究は本燃料に関する基礎的研究から実用化に関するまでに長年にわたり、たゆまざる努力によつて到達されたもので、今後尚一層発展されんことを期待する。

#### ●酸化触媒システムからのサルフェート排出要因の解析

戸倉尚巳君

昭和10年8月20日生。35年東京理科大学物理学科卒、同年日産自動車入社、機関研究部主任研究員。

斉藤恒明君

昭和14年7月4日生。38年東京大学工学部機械工学科卒、同年日産自動車入社、研究企画室室付。

長谷川洋二君



◀ 通常総会であいさつをされる豊田会長

右端から、大東副会長、森田庶務担当理事、田中会計担当理事、新木会計担当理事、中村監事 ▶



# 昭和54年度事業計画

1. 総会・大会シンポジウムの開催
  1. 1 総会, 春季大会 (東京)  
5月15日(火) 学術講演会, 研究懇談会・16日(水)  
学術講演会, 第33回通常総会, 第29回自動車技術会賞  
授賞式, 特別講演会, 懇親会・17日(木) 見学会
  1. 2 秋季大会 (仙台)  
10月16日(火) 学術講演会, 研究懇談会・17日(水)  
学術講演会, 特別講演会, 懇親会・18日(木) 見学会
  1. 3 講演会・シンポジウム  
新型原動機, ガソリン機関, エレクトロニクス, 材料  
等技術会議各部門委員会企画による講演会・シンポジ  
ウム 10回開催
  1. 4 関連学協会との連携活動  
講習会・講演会・シンポジウム等の共催・協賛
2. 自動車技術情報活動, 出版物の刊行
  2. 1 会誌「自動車技術」12冊発行
  2. 2 自動車技術会論文集 2冊発行
  2. 3 外国自動車技術文献抄録誌 13冊発行
  2. 4 1980年版自動車諸元表 1冊発行
  2. 5 JSAE Review 1冊発行
  2. 6 自動車工学便覧改訂版の刊行準備
  2. 7 学術講演会前刷集 2冊発行
  2. 8 1978年版会員名簿の追補版発行
3. 支部の事業
  3. 1 関東支部  
講演会4回, 見学会6回, 懇親会その他
  3. 2 中部支部  
特別講演会1回, 技術講演会1回, 技術講習会1回,  
見学会11回, 懇親会その他
  3. 3 関西支部  
例会4回 (講演会・見学会2回, 見学会2回), 懇親  
会その他
  3. 4 九州支部  
講演会, 見学会, 懇親会その他
  3. 5 東北支部  
講演会, 見学会, 懇親会その他
  3. 6 北海道支部  
特別講演会1回, 講演会3回, 研究会3回, 見学会2  
回, 懇親会その他
4. 学生自動車研究会の活動  
学生会員の研究活動を盛んにし, 学生会員相互の親睦をは  
かり, 学生会員の拡充を期す.
5. 技術  
自動車技術会議組織において常設の部門委員会を軸に, 技  
術情報の収集, 討議ならびに研究活動を推進するため, 次  
の委員会活動を行う.
  5. 1 部門委員会  
ガソリン機関, ディーゼル機関, 新型原動機, 燃料潤  
滑油, 操縦性安定性, 振動騒音性能, 構造強度, 疲労  
信頼性, 材料, 生産加工, 交通環境, 安全人間工学,  
エレクトロニクス, 動力伝達系の14部門委員会におけ  
る技術情報の交換および討議
  5. 2 特設委員会 低燃費特設委員会
  5. 3 学術講演会運営委員会  
春秋の学術講演会および関連学協会との共催, 協賛の  
際の運営ならびに審議
6. 規格  
自動車規格会議組織において常設9部会の下に JASO 原  
案作成22分科会ならびに ISO 規格審議18分科会を置き,  
内外の標準化業務に対処する.
  6. 1 国内規格
    - (1) JASO 規格24項目の審議制定
    - (2) JASO 規格英訳版21項目の発行
    - (3) JIS 規格原案作成ならびに関連規格原案作成への協力
    - (4) 自動車規格の作成補助事業 (日本小型自動車振興会)
  6. 2 国際規格
    - (1) ISO/TC 22 (自動車) および下部組織の SC, WG に  
おける標準化の審議ならびに会議への参加
    - (2) ISO/TC 22/SC 22 (モータサイクル) の幹事国業務お  
よび会議への参加
    - (3) ISO/TC 43 (音響), IEC/TC 69 (電気自動車) およ  
び ISO/TC 60 (歯車) における標準化の審議ならびに  
会議への参加
    - (4) 国際規格化促進補助事業 (日本規格協会)
  6. 3 ISO 専従駐在員の欧州派遣  
国際標準化業務の情報収集, 会議への出席のため欧州  
へ専従職員を派遣
  6. 4 第18回 ISO/TC 22 総会  
昭和54年4月23日~26日東京で開催する総会の事務局  
業務
7. 国際
  7. 1 国際会議への参加準備
    - (1) 第4回自動車技術会議 (1979年11月メルボルン) への  
論文提出および参加
    - (2) 第18回 FISITA 国際会議 (1980年5月ハンブルグ)  
への論文提出および参加準備
    - (3) FISITA 理事会への出席
  7. 2 海外友好団体との技術交流

昭和19年3月30日生。42年東京  
工業大学理工学部工業化学科卒,  
同年日産自動車入社, 機関研究  
部技術員。

片山 薫君

昭和23年4月16日生。48年大阪  
大学大学院工学研究科修士課程  
卒, 同年日産自動車入社, 機関  
研究部技術員。

山田雅行君

昭和24年7月29日生。49年慶応  
義塾大学大学院工学研究科修士  
課程卒, 同年日産自動車入社,

機関研究部技術員。  
(受賞の理由)

酸化触媒を使用する排気浄化シス

テムからのサルフェート排出を抑制  
するには, 先ずその排出要因を明ら  
かにする必要がある。本研究は多く



◀ 懇親会にて歓談される参加者



◀ 自動車技術会賞受賞者

のパラメタに関して周到に計画された一連の実験により、ペレット型、モノリス型それぞれの触媒について温度や空燃比など触媒使用条件と、触媒金属成分や担持法など触媒調製条件の両面にわたって排出要因を明らかにし、適切な低減対策を行うことにより、サルフェートは実用上問題のないレベルまで低減されることを立証し、酸化触媒システムを採用する自動車排気浄化技術の進歩に貢献した。

《技術賞》

●揺らん期における国産自動車性能および交通安全に寄与した業績  
熊倉栄一郎君

大正7年1月3日生。昭和25年東京工業高等学校機械科卒、43年(財)自動車高速試験場〔44年(財)日本自動車研究所に改称〕、嘱託。

(受賞の理由)

昭和20年代～30年代の初めにかけて自動車技術会が中心となつて実施した通産省委託の自動車性能試験の実施、運営に従事し、試験の準備と現場における進行につき献身的な努力を重ね、常に成功に導いた功績はきわめて大きい。また(財)日本自動車研究所の施設建設に携わり、今日

の自動車工業の基礎となるべき試験研究に貢献し、その間、交通安全に関する関係諸団体の役職員として奉仕して交通安全に寄与し、永年にわたり自動車工業の技術向上に尽した業績を賞する。

●自動車用ディーゼル機関の耐久試験法の確立および同試験装置の実用化に関する研究

西川正一君

大正9年7月29日生。昭和17年海軍工機学校普通科卒、23年日野自動車工業入社、研究第1課。

(受賞の理由)

日野自動車工業(株)入社以来、約30年間の永きにわたりエンジン実験に従事し、自動車用ディーゼル機関の改良、開発業務に携わり、ディーゼル機関の技術進歩、向上に貢献した。特に台上シミュレートテストによる耐久試験法を確立し、台上エンジン耐久試験用自動運転装置を考案してプログラム運転装置、自動警報停止装置、連続記録装置等を結合し実用化に成功した。ディーゼルエンジンの信頼性保証手法の確立に貢献した業績はきわめて大であり、これを賞する。

■ 学術講演会 ■

5月15日～16日の二日間にわたつ

て東条会館において行われた。26講演が行われた。

各座長には、次の各氏が担当された。五味 努(上智大)、国井和哉(日産)、金 栄吉(JARI)、戸出忠秀(トヨタ)、大野進一(東大)、近森 順(三菱自工)、東野一郎(大阪市立大)、佐藤 武(慶大)、中桐 滋(東大)、高城宗之(いすゞ)、小林敏雄(東大)の各氏。

■ 特別講演会 ■

5月16日(水)東条会館1階において、第29回自動車技術会賞学術賞を受賞された鶴賀孝広氏(JARI)および戸倉尚巳氏(日産)の両氏による特別講演会が約1時間にわたつて行われた。

■ 懇親会 ■

5月16日(水)東条会館5階スタールームに120余名の参加者を得て盛況のうちに行われた。豊田会長の挨拶に続いて、楠木名誉会員の挨拶および乾杯の音頭により幕を明け、和やかに会員相互の親睦を深めあつた。

■ 見学会 ■

5月17日(木)5班に編成されて工場見学が行われた。( )内は各見学者の参加数を示す。

- 日産自動車(株)村山工場 (96)
- 曙ブレーキ工業(株)岩槻製造所 (40)
- (株)日立製作所・佐和工場 (43)
- (財)日本自動車研究所 (64)
- トヨタ自動車工業(株)上郷工場・高岡工場 (104)

自動車技術会 編集	自動車技術	昭和54年6月25日 印刷
		昭和54年7月1日 発行
Vol. 33, No. 7, 1979.		定価 1,300円 (〒41円)
発行所 社団法人自動車技術会 (郵便番号) 東京都千代田区五番町10番2号 102 電話 東京 (03) 262-8211 (代) 振替 東京 0-196725番	編集発行人 五味 努 印刷所 大田印刷株式会社	